

パイロット版 Vol.1

- スマホで見るイメージで作っています。実際のデザインは決まっています。
- 写真はタップ（クリック）したら出てくる想定です。
- 「原稿作成要項」にあるC～Eパターンはp1から、A、B、（C）パターンはp2からになります。
- なお、本原稿はパイロット版用に作成したものであり、確認をとっていない部分も多々あります。お含みおきください。

赤城山をめぐる参詣古道 古代から続く多数の信仰の道



赤城神社参道の標識と大洞赤城神社

【①】群馬県を代表する赤城山は古くから信仰を集め、四方から山頂の赤城神社（大洞赤城神社）をめざす参詣道が多くありました。いくつかの参詣道は車道やハイキングコースとして利用されていますが、当時の痕跡はわずかに残っているだけです。

赤城山山麓では旧石器時代から人々が暮らし、古墳時代には東国の中心として栄えました。山中には中世の寺院跡や祭祀の痕跡が残り、雨乞いなどで盛んに登拝した記録を見ることができます。赤城神社はいまも車で参拝する人々で賑わっています。その時代時代の神に応じた信仰の道があったと思われます。

■関係する参詣道

- 1 三夜沢赤城神社から大洞赤城神社
- 2 粕川沿いに滝沢不動尊から小沼
- 3 富士見町赤城山から大洞赤城神社
- 4 水沼から小沼
- 5 深山から沼尻

赤城山をめぐる参詣古道

1 三夜沢赤城神社から大洞赤城神社

- 【②】参詣道のなかでも最も古いと考えられるのが、今回調査したルートです。赤城山南麓の三夜沢にある赤城神社（三夜沢赤城神社）から尾根伝いに荒山（赤城山の峰のひとつ）に向かって登り、大洞赤城神社跡まで下りるルートで、途中には古墳時代の勾玉などが発見された磐座「櫃石」があります。



大沼湖畔の大洞赤城神社跡

【③】1 古道を歩く

荒山に続くゆるやかな尾根道

●三夜沢赤城神社→櫃石（ひついし）→休憩舎→軽井沢峠→大洞赤城神社跡《歩行約 5 時間》《→詳細》

■三夜沢赤城神社から櫃石

出発は前橋市三夜沢町にある三夜沢赤城神社（標高 540m）です。実際の古道はここから真南に 14km 下った二宮赤城神社が起点とされていますが、山道に入る三夜沢赤城神社としました。参道には 3km 以上にわたって松並木とヤマツツジが続き、藤原秀郷（依藤太）が献木したと言われる 3 本の杉もあります（写真①～③）。

櫃石（標高 878m）に登る道は本殿の東側、この「たわら杉」の脇にあります（「櫃石 2.1km」の道標）。平らな道を 300m ほど歩くと、オートキャンプ場に出ます。そこを左に、急なジグザグを登って尾根に出ると、そこからは比較的ゆるやかで直線的な登りになります。

笹が多い雑木林を 10 分ほど行くと左に入る道に櫃石の方向を示した道標があり、さらに直線的でゆるやかな幅広の坂がしばらく続きおよそ 20 分ほどで櫃石に着きます。

■不思議な櫃石の道

櫃石は古墳時代の祭祀跡で、神が降りる磐座です。周囲からヒスイの勾玉をはじめ 100 点を超える品物が見つかっています（県指定史跡）。静かな木々が開けた平らな場所に柵に囲まれ鎮座しています。また、付近にも同様の石がいくつか

ありました。（写真④～⑥）

不思議なのは、その櫃石を中心に、直径 200m ほどの円形の道があったということです。地形図に記されていますが、いまは藪におおわれて、わからなくなっています（図 1）。三夜沢赤城神社の神職も詳しくはご存じないようでした。

祭祀を行うための道であったのかもしれませんが、昭和になってもこの付近は茅場として利用されていたことから、神域を示すための道だったのかもしれません。

■櫃石から休憩舎（上のあずまや）

地形図にある櫃石の東の道は藪におおわれて消えています。われわれは尾根伝いを北、荒山を目指すことにしました。

北に向かう道は藪におおわれ、不思議な円形の道との交点には三角点があります（写真⑦）。平らな尾根の藪をかきわけ 500m ほど登ると、赤城温泉からくるハイキングコースに出ます（写真⑧）。

地形図には、大穴川方向に下りていく道や西側にトラバースして沢を突き上げる道が記されていますが、残っていないようでした。

ハイキングコースはゆるやかな尾根上を行きますが、標高 1150m 付近で尾根がせまり、道は左にトラバースになります。しかしこれは常識的におかしく、道のない右の方向に入ってみると、案の定、古道跡がありました。これは『群馬県歴史の道調査報告書 第 20 集 信仰の道』に記載されていた道とも合致しました（次回調査、写真⑨）。

ハイキングコースは尾根を左にトラバースし、300m ほど先で分岐し、急登を 30 分ほど登り切ると休憩舎につきます。

■休憩舎（上のあずまや）から軽井沢峠、そして大洞赤城神社跡

休憩舎からは荒山を巻くトラバースを 20 分ほど歩くと軽井沢峠です。途中の沢頭には流れ出てきた溶岩がありました。軽井沢峠は荒山の山頂への道（通行禁止）と、牛石峠の方から上がってくるハイキングルートの分岐になっていて、県道 16 号線のすぐ脇です。1150m 付近にあった古道跡は、そこからトラバースして沢の上端を渡って、300m ほど南東、牛石峠との間に突き上げてくるのではないかと推測できます。われわれは「三途の川」を渡って 16 号を横断し、16 号に平行しているハイキングコースを行きます（写真⑩）。ハイキングコースは自然の地形に逆らわない作りで、古くからの道のようにです。

道があきらかに小沼に向いたところ、軽井沢峠からは 30 分弱のところで道がわかれたので、左の道を行きます（写真⑪）。しかし、道はすぐに消えて藪になりました。さらに行くと 16 号にぶつかり、その向こうにも道が続いていたのがわかりました。

しかしそれから向こうは小川があつたり進めそうにない藪があつたため、平行している 16 号を歩きます。八丁峠（1430m）・地蔵岳登山口でハイキングコースに入り（地蔵岳を巻くようにして大沼湖畔にある大洞赤城神社跡に下ります。途中から

【④】

この古道を歩くにあたって

【5】

消えた古道、いまもある古道



らは庶民が現世利益のために参拝した道、雨乞いのために登った道、それぞれの道があったようです。

■赤城山参詣道深掘りスポット

■赤城山参詣道ミニ知識

■赤城山にまつわる話

■ルート図

■アクセス

■参考資料

■関係する参詣道

- 1 三夜沢赤城神社から大洞赤城神社
- 2 粕川沿いに滝沢不動尊から小沼
- 3 富士見町赤城山から大洞赤城神社
- 4 水沼から小沼
- 5 深山から沼尻

1

2

3

4

5

日本山岳会が選ぶ「日本の山岳古道 120 選」—— 20

赤城山をめぐる参詣古道

2 粕川沿いに滝沢不動尊から小沼

江戸時代のメインルート。粕川沿いから滝沢不動尊を経て尾根に上がり、尾根道を山頂へと続いていました。尾根の部分は現在県道 16 号となり、当時の道は消えてしまっています。修験の道場だった滝沢不動尊までは町石が残っており、古の痕跡を見つけることができます。



1 古道を歩く

七十八基の町石から続く道

●忠治温泉→滝沢不動尊→牛石峠→軽井沢峠→小沼《歩行約 5 時間》《→詳細》

■下植木赤城神社から滝沢不動尊

以下、ダミー。伊勢崎市宮前町に鎮座する赤城神社で、下植木赤城神社、あるいは殖木宮（えきみや）と呼ばれています。出発は前橋市三夜沢町にある三夜沢赤城神社（標高 540m）です。実際の古道はここから真南に 14km 行った二宮赤城神社が起点とされていますが、山道に入る三夜沢赤城神社とした。参道には 2km 以上にわたって松並木とヤマツツジ

1

2

3

4

5



① 赤城神社（三夜沢）社殿

荒山から南へのびる尾根の末端に立地。関東地方を中心に展開した赤城神社の本宮とされているうちの一社。14世紀に元三夜沢から遷座した説が有力。出雲系の大己貴命を祀る。



④ 標識と櫃石

群馬県指定史跡である櫃石。磐座信仰があり、周辺からはヒスイの勾玉をはじめ、古墳時代の手捏土器、有孔円板、剣形、玉類など、祭祀に使われた遺物が多数出土している。



② 赤城神社（三夜沢）白木の鳥居

惣門から国道353号まで続く参道には、江戸時代に植えられた1000本近いアカマツやクロマツの松並木がある。慶長17年(1612年)に寄進された苗がはじまりと伝えられている。



⑤ 櫃石

長径約5m、短径約3m、高さ約3mの安山岩。岩塊の露出部分という説もある。13～14万年前の赤城山の大噴火による山体崩壊あるいは火砕流によるものと考えられている。



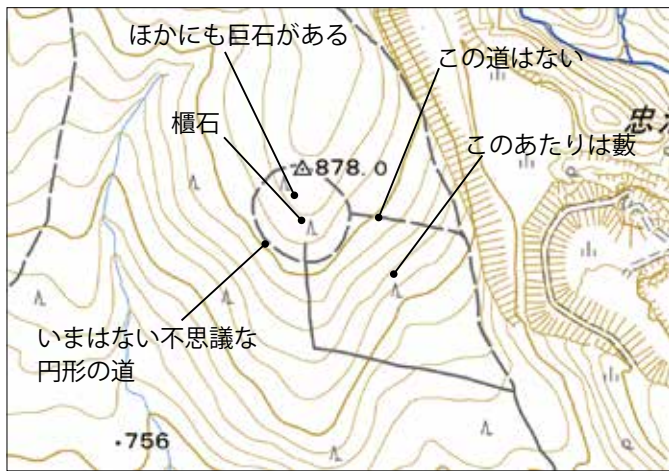
③ 赤城神社（三夜沢）御神水

境内には水量が豊富な湧き水が出ている。車で汲みに来る人も多い。近くの神池に注いでいる。



⑥ 櫃石の北にある大きな石

櫃石の北にもいくつかの大きな安山岩が露出している。赤城山山麓には火砕流や山体崩壊で押し出された孤立丘（流れ山）があり、信仰の対象となっている。



【図 1】 地形図に示された円形の道

2万5千分の1の地形図にはあるが、いまは藪となり道の痕跡はない。土に埋まった道標をいくつか見つけた。



9 古道跡を確認するメンバー

標高 1150m 付近から東にトラバースする道型がある。沢頭あたりで崩れて使われなくなったのだろう。



7 櫃石の北にある三等三角点

櫃石から北に 100m ほど、円形の道との交点にある。



10 小沼に続く遊歩道

県道 16 号に沿う遊歩道（関東ふれあいの道）は、地形に合わせて崩れにくいように作られ、古くからある道のような。



8 赤城温泉から来る道との分岐

赤城温泉（標高 860m）からのハイキングルート（関東ふれあいの道）。



11 県道に出る分岐

古い道はここで小沼方向と分かれ、地藏岳や大洞赤城神社に向かっていたと思われる。途中で藪になっている。

■ 赤城山参詣道の深掘りスポット

○ 赤城神社

関東を中心に全国およそ 300 社ある赤城神社の総本宮であるが、赤城神社（三夜沢赤城神社）、赤城神社（大洞赤城神社）、二宮赤城神社のうち、どれが本宮か比定されていない。

三社は南北一直線に並び、赤城山をご神体、あるいは山頂の大沼や小沼、地藏岳をご神体として祀っている。

三夜沢町にある赤城神社は、ほかと区別するために三夜沢赤城神社と呼ばれる。赤城山の山腹、荒山の南に位置し、北には古代の祭祀跡である櫃石がある。大胡方面に続く道には江戸時代に植えられた松並木とツツジがある。東国を治めたとされる豊城入彦命（崇神天皇の皇子）と大己貴命（大国主命）を祀る。

山頂の大沼湖畔にある赤城神社は大洞赤城神社と呼ばれる。現在の小鳥が島にある社殿は、1970 年（昭和 45 年）に遷座したもので、それまでは大沼湖畔の南の大洞にあった。創祀当初は地藏岳（当時は神庫山といった）中腹に祀られていたが 806 年（大同元年）に遷座したと伝わる。この地名の由来とも言われる。大沼の竜神、赤城大明神などを祀る。

二宮赤城神社は山麓の二之宮町にあり、三夜沢赤城神社同様、豊城入彦命と大己貴命を祀る。赤城山をご神体として祀っていたと推測される、古代の豪族・上毛野氏の墓である大室古墳群にほど近い位置にある。

■ 三夜沢赤城神社

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/shimin/miyagi/gyomu/3/5126.html>

■ 大洞赤城神社

<http://akagijinja.jp/>



古道の起点だとされる二宮赤城神社（前橋市二之宮町）

○ 櫃石（ひついし）

赤城山の南山腹、荒山の尾根上にある長径約 5m、短径約 3m、高さ約 3m の安山岩である（標高 878m）。三夜沢赤城神社から約 2km 登ったところに位置する。

周辺からはヒスイの勾玉をはじめ、古墳時代の手捏土器、有孔円板、剣形、玉類など、祭祀に使われた遺物が多数出土している。赤城山山麓には上毛野氏の墓とされる大室古墳群

があり、磐座で祭祀を執り行ったと推測されている。

13 万年（または 15 万年）前ごろの赤城山の大噴火による火砕流、あるいは山体崩壊による岩塊の一部が露出しているともいわれている。また櫃石の周辺にもいくつかの大きな安山岩が露出している。群馬県指定史跡。

■ 櫃石

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/shimin/miyagi/gyomu/3/5125.html>



○ 滝沢不動堂

粕川の溪谷沿いにあり、巨大な洞穴の下に本尊の滝沢不動尊が建つ。安置されている不動明王は応永 13 年（1406 年）に上野国佐貫の庄司藤原道広が奉斎したと言われる。失われている右腕は、上杉謙信が戦の折に同行させたといういわれがある。

近くの不動滝（標高 820m）は県指定名勝にも選ばれ、赤城山中第一の滝。高さ 32m の絶壁から水が落下する様は雄大で、滝沢不動と共に修験道の信仰の対象になっている。近くには、国定忠治が隠れ家としたという忠治の岩屋、修験道の寺・三宝堂、不動明王の足を保管する瀧興寺などもある。

■ 前橋市粕川町室沢 1130

■ おすすめスポット

● 博物館・資料館・郷土館

○ 粕川歴史民俗資料館（前橋市）

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/shisetsu/1/4/13301.html>

○ 総社歴史資料館（前橋市）

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/shisetsu/1/4/13299.html>

○ 群馬県埋蔵文化財調査センター 発掘情報館

<http://www.gunmaibun.org/excavation/>

○ 黒保根歴史民俗資料館（桐生市）

<https://www.city.kiryu.lg.jp/shisetsu/bunka/1006550/index.html>

○ 群馬県立歴史博物館（高崎市）



<https://grekisi.pref.gunma.jp/>

○赤城山総合観光案内所

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/shimin/fujimi/shisetsu/5237.html>

○赤城公園ビジターセンター

<https://www.pref.gunma.jp/01/e2310243.html>

●遺跡

○赤城登山鉄道赤城山頂駅跡

<https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/kunitouroku/1013412.html>

○大室古墳群

<https://sitereports.nabunken.go.jp>

■ 赤城山参詣道三二知識

● 赤城山の火山活動 ●

関東平野の北端にそびえる名峰。榛名山、妙義山ともに上毛三山のひとつ。大規模な成層火山で、山頂にカルデラを作り、その中に溶岩ドームがある。大きな噴火活動は 3.2 万年前に終わっている（気象庁は「約 2400 年前に終了」としている）。主峰である外輪山の黒檜山（標高 1828m）をはじめ、中央火口丘の地藏岳（1674m）、寄生火山の荒山（1572m）など、標高 1500m 以上の峰 7 座を数える。カルデラ内には、周囲 4km の大沼、周囲 1km の小沼、湿原である覚満淵がある。

13 万年前（あるいは 15 万年前）に赤城山の南麓に流れた火砕流は、流れ山となり丘陵に浮上した巨石は信仰の対象となっている。粕川町の七ツ石雷電神社、産泰（さんたい）神社の胎内くぐり、伊勢崎市の石山観音、五目牛の堂山などである（ただし、昭和町の「岩神の飛石」など、浅間山の噴火によるものもある）。

また、園芸用として珍重されている鹿沼土は、3.2 万年前に起きた赤城火山の最後の大規模な爆発的噴火によってもたらされた軽石でできている。



七ツ石雷電神社

● 赤城山のツツジ ●

赤城山はツツジの名所で、群馬の観光サイトにも「14 種 50 万株が咲き誇り」とある。4 月下旬ごろに三夜沢赤城神社の松並木のヤマツツジが開花すると、徐々に赤城山を登っていく。アカヤシオ、トウゴクミツバツツジ、シロヤシオ、ヤマツツジ、レンゲツツジと種類も豊富。

山頂での見頃は 5 月下旬から 6 月下旬にかけて。新坂平、覚満淵、小沼平など、平坦で陽当たりのいい場所にはレンゲツツジの大群落がある。レンゲツツジの葉には毒があるため、新坂平の牧場の牛も手をつけない（現在は放牧されていない）。レンゲツツジは群馬県の県花である。

● 宇通遺跡 ●

三夜沢赤城神社の東、粕川の左岸、標高 650m 前後の山中で

発見された寺院遺跡。9 世紀後半～11 世紀、僧侶などが山林修行をすることを目的として建立した寺院で、赤城姫の父、高野辺の大將家成が関係すると考えられている。周囲には、寺院に必要な製鉄遺跡が分布する。

三夜沢赤城神社が宇通遺跡付近から遷座した説、宇通遺跡付近と三夜沢に二社あった説などがある。

● 赤城山の名前と雷 ●

山名は、赤城山が日光の男体山に負けて血で染まったという伝説によるものや、紅葉で山肌が赤く染まることからきている説、上野国の豪族上毛野氏が名づけた説などがある。

『万葉集』では「久路保（くろほ）の禰呂（ねろ）」と黒檜山を詠んで、赤城山を表していた。「久路保」とは黒峰のこととで黒い雷雲が立ちこめる山。群馬県では赤城山や榛名山、草津白根山、浅間山などの山が連なり、夏場に吹く太平洋側からの風が山にあたって上昇気流を起こすために、雷雲が発生しやすく、雷の多発地帯になっている。そのため古くから雷や雨への信仰も集めていた。ちなみに榛名山の伊香保は、雷の峰（いかつちのほ）から来ているという。

山に掛かる雲を「日光蓑に筑波笠、赤城の腰巻、榛名の鉢巻」ということわざもある。

● 櫃石で祭祀をした豪族 ●

赤城山や榛名山南麓に広がる関東平野の北部は、上毛野（かみつけの／かみつけぬ）として古代から東国の中心として、ヤマト王権と結ばれた巨大な文化圏があった。群馬県では 13000 基を超える古墳が確認されており、100m 以上の巨大古墳も多い。櫃石の南にある大室古墳群一帯は、古墳時代の中心であつたらしい。

『日本書紀』には、崇神天皇の子で東国の統治を任じられた豊城入彦命の祖が上毛野君だと記されている。『日本書紀』と『常陸国風土記』には、豊城入彦命は紀の国の出身とあり、「紀の国」が「毛の国」に転訛した節もある。

いずれにしても、巨大古墳を作った豪族・上毛野氏が磐座である櫃石で祭祀を執り行っていたと思われる。



埴輪が並ぶ中二子古墳（大室古墳群）

■ 赤城山にまつわる話

赤城大明神となった赤城姫

高野辺の大将家成には、淵名姫、赤城姫、伊香保姫という3人の娘と1人の息子がいました。家成は後妻を信濃国から迎えましたが、家成と息子が留守の時に、後妻は弟の更科次郎兼光をたきつけて、淵名姫を利根川の倍屋ヶ淵に投げ込んで殺害。赤城姫は赤城山に逃げ込んで、沼の竜神の跡を継いで赤城大明神となりました。伊香保姫は伊香保太夫の居城に逃げ込みました。戻って来た家成は、倍屋ヶ淵で自殺してしまいました。都にいた息子は、軍勢を率いて兼光を殺して継母らを信濃国へ追放。追放された継母は、姨捨山に捨てられました。(『神道集』)

赤城の神と二荒山の神の争い

赤城山の神と二荒山(日光男体山)の神が争ったという話は、古墳時代にあった上毛野国(群馬県)と下毛野国(栃木県)の争いがもとになったとされています。

土地を争い、あるいは水を奪いあい、赤城山の神の化身の大ムカデと二荒山の神の化身の大蛇が、日光の戦場ヶ原で戦って、中禅寺湖畔の菖蒲ヶ浜で大ムカデが破れてしまいます。血を流した場所が赤沼、宴を開いた場所が歌ヶ浜というのが多くある話で、さらにいくつものバリエーションがあります。弓の名人、鹿島の小野猿麻呂が二荒山の神に加勢したという話や老神温泉で赤城の神が傷を癒した、あるいは赤城山の神が勝ったという話も伝わっています。

娘が小沼の竜神だった話

佐波郡赤堀村(伊勢崎市)に、豪族・赤堀道元が住んでいました。道元夫婦には子供がなかったので、赤城山に登り、赤城大明神に祈ったところ、1人の娘を授かりました。

娘が16歳になった時、赤城山へ登りたいと言いだし、両親もこの願いを聞き入れることにしました。

駕籠が小沼の畔に到着した時、娘が急に、「水が飲みたい」

と言って、沼に足を踏み入れました。そして「私は召されてこの沼の主になります。今まで育ててくださってありがとうございました。お父様、お母様によろしくお伝えください」と、いきなり沼に飛び込んでしまったのです。娘は、もともと、小沼の主の竜だったのです。

道元が小沼を掘りわって流した水は滝となって粕川に注がれ、村人たちは干魃に苦しむことはなくなりました。

桐生市旧黒保根村の医光寺には、娘の遺品「道元娘の帯」が保管されています。(伊勢崎市赤堀地区の伝説)



大沼と地藏岳(正面)

■ ルート図

*コース時間、距離は大凡です。目安としてください。

三夜沢赤城神社境内（出発）

↓ 10 分、↑ 10 分、0.5km

オートキャンプ場

↓ 50 分、↑ 40 分、1.4km

櫃石

↓ 40 分、↑ 40 分、1km

赤城温泉から来る道との分岐

↓ 25 分、↑ 20 分、1.3km

標高 1500m 付近

↓ 10 分、↑ 10 分、0.5km

分岐

↓ 30 分、↑ 20 分、1.3km

休憩舎（分岐）

↓ 20 分、↑ 20 分、1km

軽井沢峠（県道 16 号線、分岐）

↓ 5 分、↑ 5 分、0.3km

三途の川

↓ 20 分、↑ 20 分、1km

小沼方向との分岐

↓ 5 分、↑ 5 分、0.2km

県道 16 号線

↓ 5 分、↑ 5 分、0.2km

八丁峠／地蔵岳登山口

↓ 30 分、↑ 40 分、1.2km

大洞赤城神社跡（到着）

合計 約 5 時間

■ アクセス

●公共交通機関

- 上毛電鉄・大胡駅～赤城神社（三夜沢）ふるさとバス（乗合デマンドバス）

<https://www.pref.gunma.jp/04/h2110047.html>

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/kotsuseisaku/gyomu/5/2/1/2947.html>

- JR 前橋駅～赤城山ビジターセンター（富士見温泉で乗り換え）関越交通バス

<https://kan-etsu.net/publics/index/42/>

- JR 前橋駅～赤城神社（三夜沢）タクシー（約 20 分）

●マイカー

・関越自動車道・高崎 I.C. → 駒形（県道 27 号高崎駒形線）→ 県道 40 号 藤岡大胡線 → 県道 16 号大胡赤城線 → 三夜沢赤城神社

・関越自動車道・赤城 I.C. → 国道 353 号 → 県道 4 号前橋赤城線 → 大洞

（注）県道 16 号大胡赤城線は冬季閉鎖（赤城温泉入口～小沼地先）

●駐車場

三夜沢赤城神社駐車場（参拝用）

赤城公園ビジターセンター

おのこ駐車場

大洞駐車場

参考資料

●「赤城山をめぐる参詣道」を書くにあって参考にした文献や Web 情報

- 群馬教育委員会文化財保護課編『群馬県歴史の道調査報告書 第20集 信仰の道：上毛三山を中心に』群馬県教育委員会、2001.3
- 栗原久『人々を楽しませる赤城山の魅力（1）地形の概要と山頂における植生の特徴』東京福祉大学・大学院紀要第2巻第2号、https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/7322/1/Vol2No2_197-Kuribara.pdf
- 栗原久『人々を楽しませる赤城山の魅力（2）赤城山をめぐる伝説とそのルーツの考察』東京福祉大学・大学院紀要第4巻第2号、<https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/8825/1/vol4-2p155%20KURIBARA.pdf>
- 栗原久『人々を楽しませる赤城山の魅力（3）赤城神社（二宮・三夜沢・大洞）の歴史的背景』東京福祉大学・大学院紀要第8巻第2号、https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/research/images/bulletin/bulletin08_01.pdf
- 栗原久『赤城山検定用テキスト』NPO 法人赤城自然塾、<https://www.akagi-trip.com/akagiyama-kentei/>
- 粕川村教育委員会『宇通遺跡 粕川村文化財報告第13集』、<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>

●参考になる書籍や雑誌

- 栗原久『群馬新百科事典』上毛新聞社、2007.6（絶版）
- 前原豊『赤城山麓に覇者が眠る大室古墳群』前橋学ブックレット、上毛新聞社、2020.12.10